

町民に寄り添い、共に歩みます。

新しい山の
お父さん

うえすぎ
上杉
たかし

「人生100年時代」の介護

< 自立支援型介護への転換 >

日本は「人生100年時代」を迎え平均寿命の延伸に伴い、高齢者の健康寿命をいかに伸ばすかが、重要な政策課題となっています。

従来の介護は「支える介護」が主流でしたが、要介護状態の長期化を防ぐためには「自立支援型介護」への転換が必要です。

自治体としては介護予防やリハビリを重視し、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活が続けられる仕組みを整える必要があります。

自立支援型介護の必要性

▶▶ 健康寿命の延伸

寝たきりや認知症の進行を防ぎ、高齢者が自立した生活続けることで、身体的・精神的な健康を維持できます。

▶▶ 社会的繋がり維持

自立支援型介護では、地域活動や就労支援を通じて高齢者の社会参加を促進し孤立を防ぎます。

▶▶ 介護費用の抑制

高齢化の進展により介護保険制度の財政負担が増大しています。要介護状態を予防し軽度の状態から改善を図ることで、介護給付費の抑制につながります。

POINT 自立支援型介護の推進は、高齢者の健康寿命の延伸だけでなく、介護費用抑制や地域の活性化にもつながります。



上杉隆史（うえすぎ たかし）

1964年1月13日生まれ 横浜市出身 逗子開成高卒（高3 4回生）

横浜市交通局に約30年間勤め早期退職後、披露山庭園住宅団地管理組合法人の管理総括専務として日本一安全安心な住宅地の確立に尽力した。

【家族】妻・長男（南郷中1年）・チャロ（保護猫♀）の4人家族 <長柄在住>

【好きな言葉】「あなたは あなたであればいい」 ～マザー・テレサ～

【資格】訪問介護員2級養成研修課程修了・管理業務主任者・運行管理者など

【地域活動】葉山町スポーツ推進委員・葉山町総合型地域SCうえるま理事
長柄町内会防犯パトロール・デイサービスボランティアなど

